

『日本漢文学研究』（第5号）の原稿募集

〔趣旨〕

日本漢文の内容は、主として訓読法を通じて受け入れた中国の学術・文化そのものでもあり、またそうして学んだ古典中国語を模して表現した日本の文化でもある。すなわち前近代においては、日本漢文は東アジア漢字文化圏の共通語としての性格をもちつつ、とりわけ日本のすべての学術・文化の根幹であった。

ところが、明治維新以後はもっぱら西欧の学術・文化を学ぶのに忙しく、日本漢文は次第に等閑視されるに至った。特に、最近の科学優先の風潮の中ではこの傾向が著しく、日本の伝統的な学術・文化の理解は真に危機的な状況にある。

一方、海外の諸国においては、近年ますます日本の学術・文化に対する関心が高まり、日本研究が盛んになってきている。それに伴い、日本漢文学研究の重要性もあらためて認識されてはいるが、現状ではまだ日本漢文学研究者の層は薄く、少数が世界各地に散在しているに過ぎない。

このような日本漢文学そのものの本質とその研究状況の認識にたてば、我々に求められるものは、まさにこれらを統轄する広範でより充実した研究体制の確立と、それに対応して研究成果を交換する機関誌の創刊であった。

平成16年、文部科学省の21世紀COEプログラムに採択され、それらの趣旨を踏まえ平成18年3月創刊し、4号まで刊行できた。平成21年3月21世紀COEプログラムが終了したが、新たに「日本漢文教育研究プログラム」としてその成果を引き継ぎ、さらにその発展を期するところである。

今回我々が刊行する『日本漢文学研究』は、国文学・国語学・中国学・歴史学その他の分野すべて、日本漢文学研究に関係する諸学の分野の結集を期し、さらに国内外の研究者をも結集するものとして、日本語、英語による年一回の出版を予定しており、世界の日本漢文学研究の振興と発展に寄与すること大であると考えます。

（ 内容等 ）

- ・ 思想、文学、歴史、芸術など漢文で表現された日本文化についての研究
- ・ 日本漢文についての言語学的、書誌学的研究
- ・ 漢文教育の過去、現在、未来についての考察と提言
- ・ 漢学塾、漢学者などの社会史的研究
- ・ 漢字漢語文化圏と日本文化との比較研究
- ・ その他、上記趣旨に沿う研究

【論文題目の提出】 あらかじめ論文の題目を、**平成21年7月31日**までに提出していただきます。

【原稿締切】 **平成21年 9月30日**

【原稿様式】 原則として ワードプロ原稿とします。

但し、手書きの原稿も可としますが、掲載決定時にはFD、CD等の電子媒体で改めて最終原稿を提出していただきます。

【原稿枚数】 400字詰原稿用紙20枚以上 60枚を限度とします。

(1200字以内の要旨および英文表題を付してください。)

論文以外は、特に下限をもうけておりませんが、上限60枚以内とします。

【発行】 平成22年 3月 (予定)

【その他】

- ・ 投稿者の制限は、特にありません。
- ・ レフェリーによる査読を実施します。
- ・ 投稿ご希望の方は、「投稿要領」を参照してください。

【提出・問い合わせ先】

二松学舎大学日本漢文教育研究プログラム事務局

〒106-8336 東京都千代田区三番町 6-16

: 03-3261-3535 fax: 03-3261-3536

E-mail: a-kanai@nishogakusha-u.ac.jp

URL: <http://www.nishogakusha-coe.net/>